

神戸YMCA学院専門学校
2025 年度 自己点検・評価表

1. 学校の教育目標

公益財団法人 神戸 YMCA はキリスト教精神に基づき、兵庫県の青少年等の心身と人格の向上を図り、奉仕の精神を養い、もって民主社会の発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献することを目的としています。（「公益財団法人 神戸 YMCA 定款」より抜粋）

そして、本校は、時代が要請する専門性に対して豊かな柔軟性をもって集中的な知識と技能の専門教育を提供すると共に、人間として確固たる信念を持ち、自らの人生を切り拓いていくことのできる青年を育成することを目指します。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

<ホテル学科>

ホテルスタッフ養成機関としての役割を維持しつつ、多様化する社会環境に合わせて、関西のブライダル業界、ツーリズム業界との関係を強化し、就職先の拡大を目指していきます。また、学生の募集広報の強化を継続的に推進していきます。（2025 度の目標）

<日本語学科>

留学生が日本語学習に励めるよう、学習環境、学校環境を整えて運営を実施していきます。そのために、多様化する学生のニーズに合わせた進路指導（就職支援）、教育プログラムや学外活動の機会をより多く提供します。日本語教育機関認定法の改訂による勉強会の実施、カリキュラム編成等のタスクチームで準備を進め、2025 年度に申請できるよう取り組む。（2025 年度目標）

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価基準 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切】

（1） 教育理念・目標

評 価 項 目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
・各学科における職業教育の特色が明確にされているか	4	3	2	1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をいんでいるか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・神戸 YMCA VISION2030 に向けた学校教育事業の 3 か年計画を着実に進めている。
- ・教職員の情報交換会、勉強会を実施するなど、学びの機会と教員によるケーススタディの場を設けることができた。
- ・日本語学科では、151 名の学生を受け入れることができた。
- ・ホテル学科では、ホテル観光業界への就職は昨年引き続き順調に進み、97%の学生が卒業時まで就職することができた。
- ・ホテル学科の広報活動の強化が実り、オープンキャンパスの来校者数の増加、2026年度新入生も42名と定員を達成することができた。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ 2026年度1回目の日本語教育期間の認定申請を行うべく、教務、学校総務の作業を進めていく。また、申請後にはカリキュラム編成等の検討会、勉強会を実施し新カリキュラムへのスムーズな移行を図る1年とする。
- ・ ホテル学科は、引き続き高校生へのアプローチを推進しつつ、日本語学校との連携をさらに強化、質の高い教育機関として募集広報に注力していく。また、在校生への丁寧な指導教育ができるよう職員の育成も行っていく。
- ・ 学校としての情報公開を行いつつ、学校教育事業の中期計画に沿って推進していく。

③ 特記事項：（補足事項）

（2） 学校運営

評 価 項 目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・ 設置団体は学校運営者として適切な団体であるか	4	3	2	1
・ 目標達成におけた運営方針や中長期計画・単年度の事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・ 事業計画にしたがって教育活動が実施されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	4	3	2	1
・ 基本計画に従った予算執行が適切になされているか	4	3	2	1
・ 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・ 校長、主任教員及び教員は、専修学校及び日本語教育機関で求められる要件を満たしているか。	4	3	2	1
・ 留学生のための事務組織が整備されており、留学生の申請取次者が配置されているか。	4	3	2	1
・ 授業料等の内訳及び納付時期が明示されている。また、学費返金規定が公開されているか。	4	3	2	1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ 職員体制の充実を図り、増員を行った。
- ・ 講師体制の世代交代に向けて、講師を登用することができた。（日本語学科）

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ 次年度も更なる職員体制の充実化を図り、新たな体制でより安定した効率的な学校運営を目指す。
- ・ 次年度は、新しい校務管理システムを導入することにより学生の情報管理の効率化を図る（ホテル学科）
- ・ 学費の返還に関する規定については、学則に定めており、学則自体は公開しているが、返還に関する

規定を個別に分かりやすい形では公表していないため、今後、学習者への情報提供の充実を図る観点から、公表方法について早急に検討を行う。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（３） 教育活動

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１、				
・教育目標に沿って修業年限に対応した到達目標が明確にされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・到達目標に合わせて教育課程・カリキュラムが体系的に編成されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、教育内容やプログラムの作成や見直し等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、実践的な教育（実習等）が体系的に位置づけられているか。	ホテル)	4	3	2	1
・教育目標に合致した教材が選定されている。また、補助教材等は著作権法に留意されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・外部関係者からの評価を取り入れているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学習内容、学事暦、学習及び学校生活における留意点、入管法上の課題等を、学生達に伝えているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・資格取得に関する指導体制がとられているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる能力経験を備えた教育を確保しているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・業界団体との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	ホテル)	4	3	2	1
・指導者の研修や指導力育成のための取り組みが行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：学校教育法の一部改正に伴い、次年度からの学習時間を変更した。
- ・日本語学科：日本語教育機関認定に向け、新しいカリキュラムの作成を進めている。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：カリキュラムを見直し、教育内容の充実を図る。
- ・日本語学科：日本語教育機関認定申請に向け着実に準備を進める。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（４）学修成果

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１				
・就職率の向上にむけての取り組みがなされているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・進路指導の向上と進学率のアップに向けての取り組みがなされているか。	日本語)	4	3	2	1
・資格取得率の向上にむけての取り組みがなされているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・退学者率の軽減にむけての取り組みがなされているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後の社会的な活躍及び評価を把握しているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：２年生の就職状況・・・９名が就職内定。１名は就職活動継続中。
- ・日本語学科：進学（大学院、大学、専門学校）４９名、就職 ９名、帰国 ８名、その他ビザ取得４名

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：実習や就職など、学生に対する個別相談・指導体制をよりきめ細やかに構築する。次年度も学生数がさらに増えるため、管理体制を徹底する。
- ・日本語学科：資格取得のための授業を継続実施する。

③ 特記事項

特になし

（５）学生支援

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１、				
・就職（進路）指導に関する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学校生活について相談する体制は整備されているか	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

・奨学金等の経済的な支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。		4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・住宅やアルバイト、在留資格等の学生の生活環境への支援は行われているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・保護者と適切に連携をしているか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか。	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ワイズメンズクラブ等の団体から、生活物資の寄贈を受け、留学生を対象に寄贈品の提供を行った。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・次年度も関係各位へ支援要請をして、学生たちへの物資支援を行っていく。
- ・カウンセラーによる、学生相談や学生対応のためのコンサルティングを実施し、学生の健康面・精神面をこれまで以上にケアする。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（６）教育環境

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１、				
・教育機関として適切な位置環境にあるか、兵庫県及び法務省の基準を満たしているか。	4	3	2	1	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	ホテル)	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1	

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホテル学科：ホテル実習やブライダル施設での実習の機会を提供している。
- ・両学科：年２回の消防訓練を実施している。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科：新規の実習先を開拓し、学生全員へ確実にインターンシップの機会を提供する。
- ・日本語学科：学生数にあった職員体制を整え、授業及び課外活動等のプログラムを予定通り実施す

る。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（７） 学生募集活動

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１、			
・ 学生募集活動は、受入方針を定め、募集計画を策定し、計画に従って適正に行われているか	ホテル)	4	3	2 1
	日本語)	4	3	2 1
・ 学生募集活動において、学校情報提供や入学相談を行っているか	ホテル)	4	3	2 1
	日本語)	4	3	2 1
・ 学生募集活動において、教育内容や教育成果は正確につたえられているか	ホテル)	4	3	2 1
	日本語)	4	3	2 1
・ 学費等の学生納付金は適切なものとなっているか	ホテル)	4	3	2 1
	日本語)	4	3	2 1
・ 海外の募集代理人（ＡＧ）の行う募集活動が適切に行われていることを把握しているか	日本語)	4	3	2 1
・ 入学選考基準及び方法が明確化されているか	ホテル)	4	3	2 1
	日本語)	4	3	2 1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ ホテル学科：日本人・留学生ともに増加し、定員を超える入学者数を獲得した。
- ・ 日本語学科：リスティング広告を行い、新たな AG との交渉をして学生紹介を受けている。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ ホテル学科：定員を満たしたことで、合否基準や入試のあり方等を検討する。
- ・ 日本語学科：リスティング広告を継続させ、より HP への訪問者を増加させて、学校の認知を得ることに取り組み、引き続き既存学生・卒業生等を通じた紹介の促進を図る。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（８） 財務

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１、			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適切に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・ ホテル学科の入学者数が増えたことにより、収支状況がコロナ前の水準まで回復した。

・あと2年ほど募集、人材に投資することにより学校運営も安定する見込みである。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホテル学科、日本語学科ともに2026年度入学者の定員を満たすことができたため、引き続き定員達成を目標に募集広報を行い、安定した学校運営を図る。
- ・入学金や学費の改定、年度途中の退学者の返金規定の見直しを行う。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

（９）法令等の遵守

評 価 項 目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	兵庫県)	4	3	2	1
	法務省)	4	3	2	1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		4	3	2	1
・ 自己評価の実施と問題点改善を行っているか		4	3	2	1
・ 関係省庁、法務省入管局への届出・報告を行っているか		4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・法務省へ、告示校に関する定期報告を提出した。
- ・学校教育法一部改訂に伴い、学則変更を行った。

②次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・引き続き継続する。
- ・文科省日本語教育機関認定に向けた申請を行う。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

（１０）社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・秋祭りや YMCA の学童保育施設でボランティア活動等、年間を通して 40 名以上の学生が地域ボランティアとして活動を行うことができた。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・地域に対する公開講座や教育活動については、これまでも地域住民や関係団体と連携した取組を実施してきたものの、公開講座や教育訓練等として体系的・継続的に実施するまでには至っていない。今後は、神戸YMCAが有する地域ネットワークや多文化共生に関する教育資源を活用し、日本語教育及び国際理解・多文化共生に関する公開講座や地域連携事業の充実を図るとともに、行政機関や地域団体との連携を一層推進し、地域社会への教育的貢献の拡大に努める。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

（１１）留学生の入国在留支援について

評 価 項 目	適切：４、ほぼ適切：３、 やや不適切：２、不適切：１、			
・留学生の受入れについて、戦略をもって行っているか	4	3	2	1
・留学生の受入れ、在籍管理等において正確な情報収集、適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・日本語学科を中心に、国の入国審査や施策を確認し、適切な入国手続き及び在籍管理を遂行した。
- ・留学生に対し、ホームルームにおいて、生活状況調査を定期的に行い、学生の状況の変更等の把握に努めた。
- ・関係省庁、入国管理局等のHPや県からの通達など、その内容を踏まえながら、関係団体の情報、協働する日本のYMCAの留学生事業、および海外のYMCAやエージェントからの情報も得ている。

②次年度における改善策（具体的な計画）

- ・引き続き、正確な情報を関係省庁、団体から得て、適切な手続きを行っていく。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標、計画の総合的な評価結果

2025年度の本校は、神戸YMCA VISION2030に向けた中期計画の着実な推進と、各学科における大きな転換期への対応を主軸に教育活動を展開した。

ホテル学科においては、近年の積極的な広報活動とSNS活用の強化が実を結び、オープンキャンパス来校者数が大幅に増加した。その結果、2026年度の新入生は42名と募集定員を達成し、コロナ禍を脱して学校運営の安定化に向けた大きな一歩を踏み出すことができた。教育面では、関西圏のホテル建設ラッシュという好機を捉え、卒業時までの就職率97%という極めて高い実績を維持した。また、実習機会の提供や学則変更に伴う学習時間の調整など、時代と法制度に即した教育環境の整備を推進した。

日本語学科においては、日本語教育機関認定法の改正に伴う認定校申請を最重要課題と位置づけ、タスクチームによる新カリキュラム編成や勉強会を精力的に実施した。講師陣の世代交代と登録日本語教員資格取得への支援も計画的に進んでいる。

学生支援の面では、ワイズメンズクラブ等の外部団体と連携した物資支援など、YMCAらしい「共に生きる」精神に基づいた多角的なサポート体制を構築し、学生が安心して学習に励める環境を整えた。学校運営・財務面では、入学者数の回復により予算状況がコロナ禍前の水準まで改善し、人材や設備への投資が可能な好循環が生まれつつある。また、次年度に向けた新しい校務管理システムの導入決定や職員の増員など、組織基盤の強化にも着手した。

今後の課題として、学生数の増加に伴う個別指導・管理体制の更なる徹底や、新カリキュラムへの円

滑な移行が挙げられる。次年度は、2026年度の認定申請を確実に行うとともに、ICTの活用による業務効率化と、カウンセリング体制の充実による学生のメンタルヘルスケアを強化し、キリスト教精神に基づく「一人ひとりを大切にする教育」の質をさらに高めていく所存である。